

令和4年4月19日

社員各位

特定非営利活動法人共創のまちサポート  
理事長 國井 達夫

第6回通常社員総会のご通知

表題のとおり総会を開催いたしますが、コロナ禍が依然として続く中での対策として委任状を活用した手法があり、本市でも推奨していることから、会員からの委任状の提出を受け、役員（新会員）等の少人数で開催する形式で開催したいと存じます。  
どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- 1 日時 令和4年5月14日（土） 午前10時00分～
- 2 場所 いわき市平字田町120番地 LATOV6F  
いわき産業創造館 IT研修室
- 3 会議の目的及び審議事項  
第1号議案 令和3年度事業報告  
第2号議案 令和3年度収支決算  
第3号議案 令和4年度事業計画  
第4号議案 令和4年度収支予算

なお、出欠の確認及び委任状の用紙を同封させていただきます。

追伸 大変恐縮ですが当 NPO 法人の会費 2,000 円の納入をお早めにお願  
いたします。

振込先 東邦銀行 谷川瀬支店  
口座番号 普通 576981  
口座名義 特定非営利活動法人 共創のまちサポート  
理事長 國井 達夫

第6回通常社員総会次第

日時 令和4年5月14日(土)

午前10時00分から

場所 ラトブザ6階IT研修室

- 1 開会
- 2 理事長挨拶
- 3 出席者報告
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人の選出
- 6 議案審議
  - 第1号議案 令和3年度事業報告
  - 第2号議案 令和3年度収支決算
  - 第3号議案 令和4年度事業計画
  - 第4号議案 令和4年度収支予算
- 7 報告事項
- 8 閉会
- 9 その他

令和3年度 デリバリー型コミュニティ食堂事業報告書

<p>①事業の概要</p>	<p>朝食の提供</p> <p>具体的には、朝食は、平第14区公民館で毎週火曜日、水曜日の6:30～8:00に実施しました。コロナ禍の中、感染拡大防止の観点から3密を避け一堂に会して食事する方式から、お弁当として持ち帰ってもらうテイクアウト方式に変えました。</p> <p>大人300円、高校生100円、中学生以下の子ども50円の低料金で野菜、肉類、たんぱく質等、健康的でバランスの摂れた朝食を提供しました。</p> <p>また、まん延防止期間中は公民館そのものが使用禁止となったことから、公民館の玄関先で調理パンやトート等の食材を無料で提供する「無料朝市」を毎週火曜日の朝に開催しました。</p>
<p>②事業の振り返り</p>	<p>コロナ禍の中でもコミュニティ食堂に対するニーズは、より高まっているように感じられることから、できることは実施しようとの考えのもと、5月、6月の始め、8月9月、2月、3月と公民館が閉鎖となり利用できませんでしたが、無料朝市に変えて、食材の提供は続けました。</p> <p>その結果、テイクアウト方式に変更したコミュニティ食堂ですが、無料朝市を含めると、昨年度を上回って83回開催することができ、3,000人以上の参加がありました。</p> <p>平第14区の区長も毎週参加していただき、あまり多くは話せませんが、コミュニティの場としてもある程度は実績が残せたかなと考えています。</p> <p>また、一人暮らしの高齢者の方や、孫やひ孫の面倒を見ている高齢者、母子家庭や生活保護受給者等様々な立場の方の参加があり、多い時は60食以上になる等、この活動が地域に浸透し根付いてきた思いを強くしております。</p>

この事業を行う上で一番苦労したこと

苦労した点としては、コロナ禍で人が集まる事業そのものが否定的に見られる中で、どのようにしたら皆さんのニーズに応えられるようにできるか思案を重ねた点です。テイクアウト方式にして3密状態を避けることはもちろんですが、感染防止対策をしっかりと実施し、非接触型の体温計、手の消毒、飛沫防止、ソーシャルディスタンス等に配慮して行いました。

この事業で達成できなかった反省点

やはり、コロナ禍の中、緊急事態宣言等でコミュニティ食堂事業は休業せざるを得なかった期間もあり、1年を通じて半分程度しか実施できなかったことが残念です。

しかし、テイクアウトにしたことにより、参加した方の家族がお弁当を見て美味しそうだと新たに参加する人が増え、60食以上の注文が入る時もありました。うれしい悲鳴ですが、公民館の台所は普通の家庭のスペースぐらいいしがなく、物理的に言っても、それ以上の食数は作るのは困難な状況になっていきます。

③事業の内容

(1) 具体的に行なった内容

テイクアウト方式により、公民館で平日の朝食の提供を行いました。  
具体的に朝食は、平第14区公民館で毎週火曜日、水曜日の6:30～8:00に実施しました。

大人300円、高校生100円、中学以下の子ども50円の低料金でバランスの摂れた朝食を提供しました。

この食堂は、子どもの成長の手助け、高齢者の体力づくりがメインにこなされてはなりません。1回限りのイベントではなく、日常レベルに落とし込んだ事業でなければ効果は出ないと考え、週2日、朝食の提供を実施しました。  
また、貧困対策がメインではないことを示すために、こども食堂ではなくコ

コミュニティ食堂と名付け、子どもも無料ではなく敢えて有料としました。それから献立の周知を図るため、公民館の看板に掲示したほか、Facebook等で1週間分の献立を毎週発信しました。

また、コミュニティ食堂事業の理解を深めてもらうため、FB等のSNSを活用して開催の予告、メニューの掲示を行い、開催後には実際の料理の写真などを掲げ周知に努めました。

加えて1か月に1回程度「NPO法人の会報「まちさぼ」を作成し、関係者には郵送するなど重層的に事業の周知を図りました。

(2) スケジュール

月	内容	場所や人数など
4月 ～ 6月	朝食を毎週火曜日、水曜日 6:00～8:00に実施。 大人 300 円、高校生 100 円、子ども 50 円の料金でバランスの摂れた朝食を提供。 しかし、コロナ禍のため、5月から6月上旬までは事業を休止せざるを得なかった。 代わりに5月中旬からは、公民館の前で食料品の無料提供を行った。	平第14区公民館で、スタッフ7人程度、参加者約40人 (1日当たり)
7月 ～ 9月	コロナ下ではあるが3密に気を付けて、感染防止対策を万全にして、事業を継続した。平第14区公民館で毎週火曜日、水曜日の6:30～8:00に実施。 コロナ禍により8月中旬から9月にかけては事業は休んだが、公民館の前で食	平第14区公民館で、スタッフ7人程度、参加者40人弱 (1日当たり)

料品の無料提供を行った。		
10月 ～ 12月	コロナ下ではあるが3密に気を付けて、感染防止対策を万全にして、事業を継続した。平第14区公民館で毎週火曜日、水曜日の6:30～8:00に実施。	平第14区公民館で、スタッフ7人程度、参加者45人弱(1日当たり)
1月 ～ 3月	再び感染拡大の様相を示し、2月3月は公民館が休止となり、事業も休止にしたが、代わって公民館の前で食料品の無料提供を行った。	平第14区公民館で、スタッフ5人程度、参加者20人弱(1日当たり)

④事業の担い手

(1) この事業におけるスタッフなどの役割分担	
<p>スタッフは、皆働いており、忙しい朝早い時間は最初から最後までボランティアで協力できる人は少ない状態であった。</p> <p>そこで、調理の委託をし、前日に買出し、前処理をしておき、当日は調理してもらい、その他曜日ごとに割振られたボランティアが、炊飯、料理の盛付け、配膳、洗い等をするように役割分担を行った。</p>	
(2) 団体及びスタッフの持つノウハウ(専門性)がどのようにこの事業に活かされたか。	(3) 外部団体、または個人から、どのような協力が得られたか。
<p>調理師の免許を持つスタッフが2名おり、最初料理の基本的な指導を積極的に行ってくれました。</p> <p>また、ウェブ上でデータを処理するのが得意なスタッフがいて、月に1回程度NP0法人の会報「まちさぼ」を作</p>	<p>フタバ鶏卵さんから毎週温泉卵を頂いたり、イオンモール小名浜さんから総菜パン等の提供、小名浜菜園さんから毎週トマトの提供、ファミリーパークさんやNP0法人ザ・ピープルさんからフードドライブの提供、そして加盟</p>

<p>成してくれました。</p>	<p>している「ふくしまこども食堂ネットワーク」から様々な食材の提供を受けました。</p> <p>また、家庭菜園や農業を営んでいる方々にもお米やジャガイモ、大根など旬の野菜をいただきました。</p> <p>加えて、東邦銀行さんやいわき信金さん等の金融機関からも地域で活動している団体として支援をいただきました。</p>
------------------	---

#### ⑤事業の成果

以前は、参加者が一堂に会して食事をとるスタイルでしたが、コロナ禍の中で3密を避け、感染防止対策を徹底しながら、テイクアウト方式に業態を変換させたことにより、コミュニティ食堂事業を継続して続けることができたことが成果として大きいと考えています。

いつも参加している方からは、引き続き安く美味しい食事を頂けてうれしいという声も聴かれています。コロナのまん延防止期間は公民館が使用できませんでしたが、何もせず手を拱いているのではなく、何かできることをやるうと、公民館前で手作りのおにぎりや調理パン等の食材などの無料提供を行っていくの方が参加、利用してくれました。

このような活動が新聞でも取り上げていただき、ロコミなどでも広がっており、1回で60食を超えるときも出てきました。しかし、現在の公民館では物理的にこれ以上は増やすのは困難です。コロナ禍で経済的に困難な世帯が増えており、相対的にコミュニティ食堂のニーズも高まっています。

そういったニーズに応えるためには、どうしたらよいか。それには、いわき市内全体のコミュニティ食堂（子ども食堂）を増やしていくという供給側のパイそのものを大きくしていく必要があると思ったりしました。

そこで、昨年の12月に市内で子ども食堂を実施している団体などに声をかけ、「いわき子ども食堂ネットワーク」を立ち上げました。当初は緩いつながりを大事にし、私たちのNPOが事務局を務めることになり、提供される食材などの情報を共有化し連携を図るとともに、新たに子ども食堂をやりたい団体に自分たちのスキル等支援を行っていくことを運動の方針としました。

現在、ネットワークの会員の中から、新しく鹿島公民館でコミュニティ食堂を5月から始める動きも出てきており、様々な方から相談も多く受けていることも鑑みますと、このような食堂をやるうとする潜在的な需要は非常に高いものがあると実感しています。

今後は、このネットワークをさらに充実、発展させていくお手伝いができればと考えておりますので、行政からのご支援を賜ればと存じます。



## 令和3年度 英語教育サポーター事業報告書

・小学生を中心に、英語を楽しく学んで、英語を好きになってもらい、中学英語にスムーズに移行できるようにと「英語教育サポーター事業」を令和2年度から、いわき市教育委員会からの受託事業として始めた。

令和4年3月末現在、19名の英語サポーターが登録しており、平第一小学校など市内20小学校に派遣し(前年度23校)、英語の授業をサポートしている。

因みに1学期は287回(70回)、2学期は833回(468回)、3学期は355回(281回)、合計1,475回(819回)の授業サポート等を実施した。昨年度と比較すると656回多くなっており、ニーズの高まりを実感している。

事業費の合計は4,045,580円(2,732,840円)となっている。

・学期毎に謝金の精算を行うために一堂に集まってもらうが、その際、サポーターの授業に臨んでの感想や意見を発表してもらい、お互いの思い等を共有し、共通認識を持っていたくようにした。また研修として、zoomの活用法やアクティビティについてのセミナーを開催した。

・今年度は本事業が2年目となるが、昨年度に引き続き市教育委員会との意見交換会を設け、この事業の各学校への周知やサポート授業のキャンセルは最低前日まで連絡し、当日キャンセルはしない旨の合意をとった。

・NPOの会報に英語関連のコラムの執筆やアクティビティの研修を細野千鶴子サポーターにお願いしており、事業サポートのスケジュール管理については、久留生夏帆サポーターに事務補助をそれぞれ有償でお願いしている。

・市教育委員会が本事業を受け入れている小学校にアンケートをし、事業評価を行ったところ、昨年度に引き続き概ね高い評価を受けており、委託先である市教育委員会でも事業の必要性を再確認したようであった。

### 部門別実績集計表【損益計算書】

令和3年4月度～決算月度

A%:売上対比 B%:科目合計対比

勘定科目	全事業所			非営利事業			まち未来創造10			英語教育20			全事業所(共通)		
	金額	A%	B%	金額	A%	B%	金額	A%	B%	金額	A%	B%	金額	A%	B%
《経常増減の部》															
【経常収益】															
【受取員受取会費】	39,000	0	100	39,000	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【受取員受取会費計】	39,000	0	100	39,000	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【受取寄付金】	1,380,500	17	100	1,380,500	97	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【受取寄付金計】	1,380,500	17	100	1,380,500	97	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【受取助成金等】	1,240,000	15	100	0	0	0	1,240,000	44	100	0	0	0	0	0	0
【受取補助金等】	1,000,000	12	100	0	0	0	1,000,000	36	100	0	0	0	0	0	0
【受取助成金等計】	2,240,000	27	100	0	0	0	2,240,000	80	100	0	0	0	0	0	0
【事業収益】	4,045,580	49	100	0	0	0	0	0	4,045,580	100	100	0	0	0	0
【事業収益計】	4,608,090	56	100	0	0	0	562,510	20	100	0	0	0	0	0	0
【その他収益】	17	0	100	0	0	0	9	0	53	8	0	47	0	0	0
【その他収益計】	17	0	100	0	0	0	9	0	53	8	0	47	0	0	0
【経常収益計】	8,267,607	100	100	1,419,500	100	17	2,802,519	100	34	4,045,588	100	49	0	0	0
【経常費用】															
【事業費】	720,000	9	100	0	0	0	0	0	720,000	18	100	0	0	0	0
【法定福利費(事業)】	26,913	0	100	0	0	0	26,913	1	100	0	0	0	0	0	0
【福利厚生費(事業)】	5,896	0	100	0	0	0	5,896	0	100	0	0	0	0	0	0
【人件費計】	752,809	9	100	0	0	0	32,809	1	4	720,000	18	96	0	0	0
【その他経費】															
【売上原価】															
【期首商品・製品棚卸高計】	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【食材仕入高計】	930,186	11	100	0	0	0	930,186	33	100	0	0	0	0	0	0
【当期仕入高計】	930,186	11	100	0	0	0	930,186	33	100	0	0	0	0	0	0
【期末商品・製品棚卸高計】	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【売上原価計】	930,186	11	100	0	0	0	930,186	33	100	0	0	0	0	0	0
【業務委託費】	320,000	4	100	0	0	0	320,000	11	100	0	0	0	0	0	0
【諸謝金】	2,636,500	32	100	0	0	0	238,500	9	9	2,398,000	59	91	0	0	0
【印刷製本費(事業)】	74,653	1	100	0	0	0	74,653	3	100	0	0	0	0	0	0
【会議費(事業)】	34,149	0	100	0	0	0	12,995	0	38	21,154	1	62	0	0	0

8



監査報告

「特定非営利活動法人 共創のまちサポート」の令和3年度  
収支決算内容及び財産状況を監査した結果、適正に執行されて  
いることを確認したのでここに報告します。

令和4年 月 日

監事 菊地 秀明

令和4年度 テイクアウト型コミュニティ食堂事業計画

①事業の概要

食を通じて、地域のコミュニティの再生、地域経済の活性化、子どもの貧困解消等、複合的な課題の解決を図っていくことを目的とする。  
コロナ禍の中、感染防止対策をさらに徹底し、集団で食事する形態から、3密を避け、自宅で食事をとってもらうテイクアウト型コミュニティ食堂事業を新たに展開する。  
その他、足が不自由等、やむを得ずテイクアウトできない高齢者等にはその人の自宅へ届けるデリバリー方式も並行して行う。

②事業対象

対象は、地域のコミュニティの再編を大きな目標にしており、第14区集会所近隣に住む住民のほか、広く他地域の住民も対象とする。  
具体的には、朝食を作るのが容易ではない共働き世帯、父子母子家庭、貧困等の世帯、独居高齢者、障害を持った一人暮らし世帯等、幅広い参加があれば事業の効果も上がると思われる。

対象のおかれている現状・課題

コロナ禍の中で、これまで行ってきた集団で朝食をとることが難しくなってきた状況である。本市では、令和4年1月27日(木)から2月20日(日)までの25日間、「まん延防止等重点措置」を適用、この決定にあわせ「市感染拡大防止一斉行動」も取り組むこととした。

こういった中で地域公民館も全面的に使用禁止となっており、一堂に会するコミュニティ食堂事業も3密の恐れがあるので休止中である。

栄養バランスのよい朝食を公民館で、皆で楽しく食べようというコンセプトがようやく根付いてきた中で、なんとかまた再開してほしいという声も多く、感染防止対策をより徹底した形態で新たなコミュニティ食堂事業ができないかボランティアの方々とも話し合い、模索してきた。

現在、対象のおかれている現状・課題は、バランスのとれた朝食を摂れない人が多いということ、コロナ禍の中、地域公民館内で集まって食事することが困難であるということである。

この事業によって、現状を改善できる具体的な目標

上記の課題を解消すべく、テイクアウト型を主に、補完的なものとしてデリバリーにも対応できるコミュニティ食堂を当面継続して実施したい。これによって周辺地域の住民にある程度限定されるが、コロナ対策は徹底されると考える。

重点テーマの解決について、まず「地域支えあい」では、地域住民等の対象者にバランスのとれた朝食が摂れるように調理ボランティアの方々と公民館で朝食を作ることで提供体制が取れること、またテイクアウトをして自宅へ戻る途中にデリバリーを望む家へ回ってもらう（そこで安否確認も可能）ことで地域住民同士の支えあいにも繋がっていくこと。

「コロナ社会」では、テイクアウト及びデリバリー型にすることで、3密となる集団での食事が回避されること、料理ボランティア及びテイクアウトで公民館へ来る方には、マスク着用は勿論、非接触体温計で検温し、消毒液で手洗いする等、感染防止策を徹底する。また、食事を入れる容器はSDG'sの観点からプラスチック製ではなく自然由来のものとし、補完的にタッパーウェアを利用しゴミを極力排出しないようにしている。タッパーウェアは専属的に貸与することで他人からの感染防止を図る。

### ③事業内容

#### (1) 具体的な計画内容

昨年度は、

- コミュニティ食堂利用者に対し形態が変わる旨を周知する。
- 地区の住民に回覧や掲示板にてコミュニティ食堂の形態が変わる旨を周知。
- FBやHP等SNSを使ってコミュニティ食堂の形態が変わる旨を周知。
- 等を重点的に実施し、ある程度周知はされてきたことから、今年度は以下の点を引き続き計画的に効率よく行っていく予定である。
- 前日までに利用希望者は電話やLINE等で予約していただき、調理に必要な食材のボリュームを確認する。60食(件)程度を当面の目標とする。
- 食事を入れる容器はSDG's及び感染拡大防止策の観点からプラスチック製ではなく自然由来のもので使い捨てとし、補完的にタッパーウェアを利用しゴミを極力排出しないようにする。
- 第14区公民館で、午前6時30分からテイクアウトの受付が始められるようにする。(利用者及びボランティアは、感染拡大防止策として非接触体温計による検温、手の消毒、マスク着用を徹底する)
- デリバリーやタッパーウェアの利用者は、個人用の備品を2セット用意し、渡して置いてくるときに前の備品を回収し、次回にも同様のサイクルを回していく。配達はボランティアに頼んで配達してもらう。その際に利用者の健康状況等安否確認も同時に行うなど地域支えあいにつなげていく。
- 食中毒には十分気を付けるようにし、2時間以内には食べてもらう等早めに食べることを勧める。
- 料金は、中学生までの子ども50円、高校生100円、大人300円。
- 基本的に利用者は利用する前日まで予約制とし、作る量を確認する。

(2) スケジュール

月	内容	場所や人数など
4月 ～ 6月	週に2回程度(火,水)朝食の提供 (6:30～8:30)を行う。 1食当たり大人300円、高校生100円、 小中学生の子どもは50円。原則予約 制。 実施日及び献立メニューを公民館掲示 板やFB等のSNSで周知を図っていく。	場所：平第14区公民館 参加人数：60食程度 スタッフ数：10人/回
7月 ～ 9月	事業を継続しつつ、様々な機会を通し てテイクアウト事業の周知を広げ、新規 参加者の獲得や障がいを持つ方等デリバ リーが必要な人の把握にも努めていきま い。	場所：平第14区公民館 参加人数：60食程度 スタッフ数：10人/回
10月 ～ 12月	同上	同上
1月 ～ 3月	同上	同上



④事業の担い手

(1) この事業に関わる団体の人数とその役割分担 調理専門のボランティア1人の他に料理ボランティアを5人程度予定。 役割は調理専門が食材購入、下処理、当日の調理を担当。他のボランティアは、曜日によって参加日を振分け、調理補助、食器等の消毒、配膳、食器洗い等を行う。	
(2) 団体及びスタッフの具体的な実績や経験	(3) 外部団体、または個人による協力の予定
4年前のコミュニティ食堂開始時から料理ボランティアをしてくださっている方が10人程度いる。	NP0 法人ザ・ピープル、ふくしまこども食堂ネットワーク、小名浜菜園、(有)フタバ鶏卵、ファミリーマート、イオンモール小名浜店等から食材の提供等協力をいただいている。

⑤事業の活用による団体の発展性	
令和3年12月12日に、勿来地区ボランティア連絡会、はまどおり大学、共生の杜青山、やま鷹、NP0 法人共創のまちサポート、NP0 法人ザ・ピープル等が主となっていわき子ども食堂ネットワークを設立した。 これは、うちの団体が事務局となって、市内既存の子ども食堂と連携をとって物資や助成金などの情報を共有化し横のつながりを持つようとするものです。 また、行政とも連携し、新たに子ども局同をやってみたいという団体等について設立や運営をサポートしようというものです。 ちなみに子ども食堂が郡山市、会津若松市等ではすでに10カ所以上存在しており、特に福島市では23以上で単独のネットワークも設立している。 いわき市の市域面積や住民数を考えれば福島市以上の子ども食堂の数があるもおおかしくないし30ぐらいの質・量ともに充実した子ども食堂は必要であると考えます。 この事業を通じてテイクアウトやデリバリーのノウハウを積むことができ、	

市立公民館など他の場所でも基本的に厨房があれば事業することが可能であり、自分たちでやるか、他団体へのノウハウを伝えながら事業開始を支援するかで、いわき市内にコミュニティ食堂を 30 カ所程度実施できる状況にしていきたい。

今年 2 月 7 日に「食フェスタいわき 食べて知ろうこども食堂」をら・ら・コミュニティで開催（セミナー64名参加、ランチ 100 食完売）したが、こども食堂をやりたい方が 4, 5 名相談ブースに来るなど潜在的なポテンシャルは高く、このようなコロナ禍で世帯が経済的に困窮化していく中で相対的な需要も増えていると思われる。

このような方々をさらに掘り起こし、いわき市にも子ども食堂を増やし、ネットワーク化して、有機的な展開が図れるようにし、少しでも市民生活の向上、市民満足度の向上の一助になればと考える。

#### ⑥前年度実施した事業の実績・成果と反省点等

新型コロナウイルスの緊急事態宣言、2 度に渡るまん防の影響を受け、全面的にコミュニティ食堂を休止していた期間があるが、1 月末現在で 2,962 名の参加があり、逆に増加傾向にある。これはコロナ禍におけるライフウートの需要が高いことが主な要因と思われる。

また、対象者はどなたでもオープンとしてきたこと、この事業がロコミ等で周知が広まったこと等から、経済的に困難な世帯も気軽に参加しやすくなり、母子家庭で孫の面倒を見ている方の参加が 2 組常連となったことも一つの成果になっていると考える。

反省点は、タッパーウェアの活用を主に考えていたが、コロナ禍では使い捨ての容器が人気があり衛生的でもあることから、自然由来の容器で SDG's に配慮しながら、こちらを主にするように方針を変更した。

前年度からの変更点や、拡充を図る点等

容器の選定については、タッパーウェアの活用を主に考えていたが、コロナ禍では使い捨ての容器が人気があり衛生的でもあることから、自然由来の容器でSDG'sに配慮しながら、こちらを主にするように方針を変更した。

現在60食程度を作っているが、1つの地域公民館では物理的にこれ以上作るの難しい状況になっている。そこでいわき子ども食堂ネットワークを拡充し、他の場所での展開も視野に入れて、自主、支援等様々なやり方を検討していければと考えている。

⑦ これまでの取り組みと比べてグレードアップした理由・内容・その効果

これまでは1回平均40食程度だったが60食程度に増えており、グレードアップしているといえる。要因は様々だが、

- ① コロナ禍でテイクアウト事業が感染防止の需要にマッチしたこと。
- ② 中学生以下50円等、コストパフォーマンスがよいこと。
- ③ 食事のバランスがよく、ボリュームもありがたいこと。

## 令和4年度 英語教育サポーター事業計画書

- ・昨年度から英語サポーターの業務内容を覚書にして書面化してきたが、今年度も「英語教育サポーター派遣業務」を作成し、サポート事業の単価を100円アップさせるなど追加項目を入れて、各サポーターとお互いに了解の下で事業を遂行していくことにする。
- ・学期毎に謝金の精算を行うために一堂に集まってもらうが、その際、サポーターの感想や意見の発表及びアンケートについて等スキルアップのための何らかの研修を昨年度に引き続き開催する。
- ・コロナ禍でALTの人数も減少しており、本事業への評価も高いことから、新規のオフナーや授業サポートの回数が増加する可能性がある。これを踏まえ、本事業の概要をパンフレット化し、新たな小学校へ本事業を説明し、オフナーを取れるように自分たちでも働きかけを行っていききたい。
- ・ニーズに応じて現在の英語サポーター数では賅いきれなくなることが予想されるときは、新規英語サポーターの採用も視野に入れておく必要がある。
- ・担任教師が一番苦手とする英語の発音について、英語サポーターも全体のレベルアップが必要と思われるため、ZOOM等を使った研修も検討していききたい。

サントリー東北サンさんプロジェクト  
みらいチャレンジプログラム申請書(団体用)

整理番号： \_\_\_\_\_

2. 奨励金を活用する事業

事業名			
いわき子ども食堂ネットワーク事業			
事業全体の実施期間			
開始	2022年 4月	終了	2023年 3月
事業の総予算			
1,931,200円			
事業の背景及び必要性(東北のみらいづくりという観点から記載ください)			
<p>2011年の東日本大震災から10年。これまで長年培われてきた地域のコミュニティは大きく変わりました。私たちのコミュニティ食堂は、以前は参加者が一堂に会して食事をとるスタイルでしたが、令和3年度からはコロナ禍の中で3密を避け、感染防止対策を徹底しながら、テイクアウト方式に業態を变换させコミュニティ食堂事業を継続して続けています。</p> <p>いつも参加している方からは、引き続き安く美味しい食事を頂けてうれしいという声も聞かれています。コロナのまん延防止期間は公民館が使用できませんでしたが、何れも手を拱いているのではなく、何かできることをやろうと、公民館前で手作りのおにぎりや調理パン等の食材などの無料提供を行い、多くの方々に利用していただきました。</p> <p>このような活動がマスコミにも取り上げていただき、口コミなどで広がっていき、1回で60食を超えるときも出てきました。しかし、現在の公民館では台所が狭く物理的にこれ以上は増やすのは困難です。一方で、コロナ禍で経済的に困難な世帯が増えており、相対的にコミュニティ食堂のニーズが高まってきています。</p> <p>そういったニーズに応えるためには、どうしたらよいか。それには、いわき市内全体のコミュニティ食堂(子ども食堂)を増やしていくという供給側のバイそのものを大きくしていく必要があると思いいたりました。</p> <p>そこで、昨年の12月に市内で子ども食堂を実施している団体などに声をかけ、「いわき子ども食堂ネットワーク」を立ち上げました。当初は緩いつながりを大事にし、私たちのNPOが事務局を務めることになり、提供される食材などの情報を共有化し連携を図るとともに、新たに子ども食堂をやりたい団体に自分たちのスキル等支援を行うっていくことを運動の方針としました。</p> <p>現在、ネットワークの会員は8団体ですが、その中から、新しく鹿島公民館でコミュニティ食堂を5月から始める動きも出てきており、様々な方から子ども食堂開設の相談も多く受けていることも鑑みますと、このような食堂をやるうとする潜在的な需要は非常に高いものがあると実感しています。</p> <p>新聞などを見ますと、福島市では23の子ども食堂があり、連携も取れているとのこと。いわき市は市域面積も住民数も福島市より多いことから30ぐらいあってもおよいと考えています。もちろん数だけではなく、質的にもしっかりした子ども食堂でなくてはなりません。一つの市で30もの子ども食堂があれば、日本で一番子ども食堂が多いまちとして注目されるかもしれません。御社のような民間団体や行政の支援を受け、NPO法人、そしてこのネットワーク等様々な組織が深く結びついて地域の課題を解決し、まちを活性化させたモデルケースとして先鞭を着けられればと考えています。</p>			
事業の目的			
<p>コロナ禍で経済的に困難な世帯が増加する状況の下、子ども食堂に対する需要が相対的に高まっており、供給側の子どもの食堂の件数も組織的に増やし、地域全体としてニーズに応えられるような体制を構築するため、「いわき子ども食堂ネットワーク」を充実発展させていくことを目的とする。</p>			

整理番号： \_\_\_\_\_

## サントリー東北サンさんプロジェクト みらいチャレンジプログラム申請書(団体用)

<p>受益者とその数</p>
<p>受益者は、ネットワークに加盟する団体及びそこを利用する市民と捉えます。 今年度は加盟団体を10とし、利用する市民は、当NPO法人のコミュニティ食堂を利用する受益者を40人とすると1年間で概算、40人/回×2回/週×4回/月×12月=3,840人≒3,500人、加えて8団体(1団体はフードライオン専門)が半年後に月に1回20名程度で子ども食堂を展開すると仮定すると20人/回×6回/年×8団体=960人≒1,000人となり併せて延べ約4,500人が利用すると考えられます。</p>
<p>成果目標 (質的成果の目標および、数値目標も含めてご記入ください)</p> <p>上記のように最終的な子ども食堂の数値目標を30としても、質的に他市の子ども食堂と比べ見劣りしていたのでは、単なる自己満足で終わってしまい、利用者の満足度が上がらず、誰のための事業なのか分からなくなってしまう。 そこで私たちのネットワークで子ども食堂事業を実施し培ってきた運営や料理等のスキルを新規食堂に伝えていくことにより、何よりも美味しく、栄養バランスの摂れた食事を提供し続けること、また食事を入れる容器はトウモロコシ等で作られた自然由来のお弁当パック等を使用しSDG'sにも配慮しながら他人からの感染防止を図ること、デリバリーについては、ボランティアに配達してもらい、その際に利用者の健康状況等安否の確認も同時に行い地域の支えあいにつなげていくこと等を標準化できるように努め、質的にも満足度の高いものを目指していきたいと考えます。</p>
<p>実施体制 (協働団体がある場合は団体との役割分担についてもご記入ください)</p> <p>いわき子ども食堂ネットワークは、特定非営利活動法人共創のまちサポートを事務局とし、加盟団体8団体(詳細別紙参照)が実施体制の主体となります。 協働団体としては、先ず地元の平第14区が挙げられます。具体的には、公民館への掲示許可、使用料の負担軽減、区長の食堂への参加等をしていただいています。 その他、ふくしま子ども食堂ネットワークには、当NPO法人が加盟していることから、助成金情報や様々な食材の提供等があり、(有)フタノ(鶏卵からは温泉玉子の提供、いわき小名浜菜園(株)からは温室栽培のトマトの提供、小名浜イオンモールや産れたてのライオンからは総菜パックの提供、ファミリーマートからはフードバンクで寄贈された食材等、いずれも定期的な提供をいただいています。</p>

整理番号： \_\_\_\_\_

## サントリー東北サンさんプロジェクト みらいチャレンジプログラム申請書(団体用)

事業内容 (どこの地域で実施され、どのような取り組みか、具体的にかつ簡潔に記入してください。)

いわき子ども食堂ネットワークの実施地域については、いわき市全域(約 1,234 km<sup>2</sup>)を対象とします。子ども食堂については法に定まった定義や基準があるわけではないので、ネットワークの加盟団体等についても、強制的な基準は設けず、緩い縛りの中で、子ども食堂を目指すという方向性が同じであれば原則加盟オーケーとしたい。取組みとしては大きく2つ挙げられる。

先ず、同ネットワークへの加入促進と加盟団体等への支援である。

FB等 SNS を活用して同ネットワークの周知を図り、支援メニューも具体的に示すことによって加入の促進を図っていきたい。具体的な支援としては、グループ Line 等を活用しての助成金情報や様々な食材の提供等を共有化し、必要な団体等に届けていく。その際、食材の配達を誰がやるのか大きな問題になるが、これは「みらいチャレンジプログラム」の助成を活用し基本的に当 NPO 法人で配れる体制にしたい。また、コロナ禍においての事業であることから、非接触型の検温器やアルコール洗浄液等のベシツクな感染拡大防止に役立つものは当初限られた期間ではあるが無償で提供したい。

また、開設当初ボランティアが足りない場合も考えられるので、ネットワークから臨時的に協力できるボランティア等を紹介できれば協力していきたい。

その他、子ども食堂の運営や料理についての相談があれば自分たちのこれまでのスキルを活かして解決へ向けて協力していくこととする。

次に、新しく子ども食堂をやりたいという団体等への支援である。

子ども食堂の運営や料理についての相談があれば、自分たちのこれまでのスキルを活かして解決へ向けて協力していくことが中心になると思われる。

コロナ禍で子ども食堂を展開するためには、3密が回避され、マスク着用は勿論、非接触体温計で検温し、消毒液で手洗する等、感染防止策を徹底する必要性を理解してもらうことで、質的な標準化を図っていきたい。

また、食事を入れる容器はトウモロコシ等で作られた自然由来のお弁当パック等を使用し、SDG'sにも配慮しながら他人からの感染防止を図る。デリバリーについては、ボランティアに頼んで配達してもらうが、その際に利用者の健康状況等安否確認も同時に行うなど地域支えあいにつなげていくことの重要性も伝えていきたい。

最後に、食中毒には十分気を付けるようにし、1時間以内には食べ終わらう等早めに食べることを書いたメモなどを同封し注意を喚起することも伝えたい。

### スケジュール

2022年4月から5月に、いわき子ども食堂ネットワークの会議を開催し、今年度の活動方針を確認する。最初の4～10月は、いわき子ども食堂ネットワークの周知に努め、新規参加者を集めていく。

加入団体の中で5月にコミュニティ食堂を開始するところがあり、皆でサポートしていく。

ネットワーク内で共通情報を常時流すとともに、食材の配達なども確実に実施していく。

後半の6か月は、新たに入会した団体等への支援を深め、子ども食堂等の今年度開催を目指していく。

引き続き様々な機会を見つけ、いわき子ども食堂ネットワークの周知に努め新規参加者を集めていく。

ネットワーク内で共通情報を常時流すとともに、食材の配達なども確実に実施していく。

整理番号： \_\_\_\_\_

## サントリー東北サンさんプロジェクト みらいチャレンジプログラム申請書(団体用)

終了後の展望・波及について

(終了後、どのように事業の取り組みを発展させていくか、資金計画等も含めてご記入ください)

子ども食堂に対するニーズは、今後ますます増え続けていく傾向にあると思われます。いわき子ども食堂ネットワークを主体として、市内の子ども食堂の目標数を最終的に30として、1年で達成できるわけではなく、少なくとも5年程度はかかるのではないかと推測します。

事業を推進していくには、人と資金が必要です。ここがNPO法人の活動で脆弱なところであり、助成金の切れ目が事業の切れ目につながっている事例は後を絶ちません。

そこで、地道にでも事業を継続していくためには、根気強く助成金獲得に向けた様々な申請活動を続けながら、無理をせずやれる範囲で活動を続けていくことが大事だと考えています。

また、行政への働きかけを強めていくことも重要です。いわき市は官民協働のまちづくりを標榜する若い市長が昨年10月に誕生しました。(実は私も関わっており、市の特別職として市長を支えています。)市長は子ども食堂にも関心があり、以前に何回か参加していただいています。このような状況のもと、補助金やボランティア関連、NPO法人の作り方等子ども食堂に関する窓口の一元化と内容の充実を呼びかけ、目標を共有化するなど協力を強めていきたいと考えております。

官民一体となったまちづくりのモデルケースとしても掲げられる事業であり、ぜひ行政の力を加えて、いわき子ども食堂ネットワークとともに子ども食堂の質・量併せた充実、発展ができればと考えています。

### 3. 事業の収支計画

収入：申請事業全体の予算をご記入ください

費目	金額 (円)	内容 (寄付金、助成金名)
本奨励金	1,000,000	みらいチャレンジプログラム
その他の補助金		
事業収入		
自己資金 (寄付金等)	931,200	NPO会費、寄付金等
収入合計 (a)	<b>1,931,200</b>	

支出：申請事業全体について記載の上、本寄付金をどの部分に活用するかについて、内訳にご記入ください

費目	金額 (円)	本寄付金からの 活用額 (円) *	内訳 (単価×数量)
謝金	50,000	50,000	ボランティア謝金 500円×10人×10回=50,000
消耗品費	50,000	50,000	消毒剤代等 50,000円
印刷製本費	42,000		広報紙発行 3,500×12ヶ月=42,000
通信運搬費	169,200		広報紙郵送代 150人/月×94円×12ヶ月=169,200
旅費	180,000	180,000	市内1,000円/回 食料の配達、他の子ども食堂への応援等 1,000円/回×15回/月×12ヶ月=180,000円
給料	1,440,000	720,000	120,000円/月×12ヶ月×50%=720,000円
支出合計 (b)	<b>1,931,200</b>	<b>1,000,000</b>	

費目は適宜変更してください

\*各費目について、本寄付金から活用する金額をご記入ください



3 事業合計

ウェブサイト型コミュニケーション食堂事業

収入の部 経費項目	予算額
自主財源	972,300
事業収入	5,265,460
補助金	1,000,000
その他助成金	1,000,000
合計	8,237,760

収入の部 経費項目	予算額	内容	積算基礎
自主財源	521,100	年会費代 寄附 入会金 その他	17人×2,000円=34,000円 400,000円 5人×3,000円=15,000円 72,100円
事業収入	900,000	朝食代	30人×300円×90回=810,000円 20人×50円×90回=90,000円
補助金	1,000,000	まちづくり活動 支援事業	2,421,100×4/5=1,936,880 > 1,000,000円
その他助成金			
合計	2,421,100		

(単位:円)

支出の部 経費項目	予算額
謝金	2,919,400
旅費	680,000
消耗品費	465,920
印刷製本費	78,000
通信運搬費	304,560
委託料 (給与)	420,000 1,440,000
使用料	32,000
原材料費	900,000
手数料	0
保険料	21,820
その他	50,000
合計	7,311,700
補助対象経費	

支出の部 経費項目	予算額	内容	積算基礎
謝金	530,000	税理士顧問料 HP更新代等 ポラ謝金	5,000円/月×12月+決算40,000円×1.1=110,000 3,000円/月×12月=36,000円 500円×16人/週×4回/月×12月=384,000円
旅費			
消耗品費	365,920	台所用品関連 弁当容器代等 除菌剤等 封筒代等	50,000円 2,145円/50枚×8回/月×12月=205,920円+50,000円 50,000円 10,000円
印刷製本費	36,000	広報紙	3,000×12回=36,000円
通信運搬費	135,360	広報紙郵送料	120人×94円×12回=135,360円
委託料	420,000		調理委託料 35,000円×12月=420,000円
使用料	12,000	公民館使用料	1,000×12月=12,000円
原材料費	900,000	食材費	朝食 200円/人×50人/回×90回/年=900,000円
手数料			
保険料	21,820	事業活動包括保険	超ビジネス保険(事業活動包括保険) 21,820円
その他			
合計	2,421,100		
補助対象経費			

いわき子ども食堂ネットワーク事業（サントリー+非営利事業）

収入の部	予算額	内容	積算基礎
経費項目 自主財源	451,200	年会費代 寄附等	
事業収入			
補助金			
その他助成金	1,000,000		サントリー みらいチャレンジプログラム
合計	1,451,200		

(単位:円)

支出の部	予算額	内容	積算基礎
経費項目 謝金	50,000		ボランティア謝金 500円×10人×10回=50,000
旅費	180,000		※市内旅費一律千円 市外実費十千円 市内1,000円/回 食料の配達、他の子ども食堂への応援等 1,000円/回×15回/月×12ヶ月=180,000円
消耗品費	50,000		消毒剤代等50,000円
印刷製本費 非営利	42,000		広報紙発行 3,500×12ヶ月=42,001
通信運搬費 非営利	169,200		広報紙郵送代 150人/月×94円×12ヶ月=169,200
委託料 (給与) 一部非営利 使用料	960,000		120,000円/月×12ヶ月=480,000円=960,000円 (内 助成金分720,000円 非営利240,000円)
原材料費			
手数料			
保険料			
その他			
合計	1,451,200		
補助対象経費	1,000,000		

英語教育サポート事業

収入の部 経費項目	予算額	内容	積算基礎
自主財源			
事業収入	4,365,460	事業委託料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業遂行費 247,500×2回×1.1=544,500円</li> <li>・コマ数 (含打合) @1,600×1,671回×1.1=2,940,960円</li> <li>・旅費@800×1,000回×1.1=880,000</li> </ul>
補助金			
その他助成金			
合計	4,365,460		

(単位:円)

支出の部 経費項目	予算額	内容	積算基礎
謝金	2,339,400		・コマ数 @1,400×1,671回=2,339,400円
旅費	500,000		・旅費 @500×1,000回=500,000円
消耗品費	50,000		
印刷製本費			
通信運搬費			
委託料 (給与)	480,000		・給与 120,000×12ヶ月×1/3=480,000円
使用料	20,000		研修会場費
原材料料費			
手数料			
保険料			
その他	50,000		雑費
合計	3,439,400		
補助対象経費		残	926,060

いわき子ども食堂ネットワーク会員名簿

団体名	住所	代表者	連絡先	備考
勿来地区ボランティア連絡会	いわき市錦町大島1 (勿来支所)	木島 勇道	0246-63-2583	
はまどおり大学	いわき市平字六間門2-34	菅波 香織	0246-38-9120	
特定非営利活動法人 共生の杜青山	いわき市錦町中迎2丁目2-5	田子 一	080-7732-3436	
やま鷲	いわき市小名浜花畑町47-8	曲山 修太	050-8883-6663	
特定非営利活動法人 ザ・ピープル	いわき市小名浜君ヶ塚13-6	吉田 恵美子	0246-52-2511	
(有)そら	いわき市平下神谷字出口17-1	上面 祐子	0246-34-8661	
(仮称) かしまコミュニティ食堂	いわき市鹿島町久保字里屋5-5	渡邊 隆	090-4554-6287	
特定非営利活動法人 共創のまちサポート	いわき市平字高月103-1	國井 達夫	090-6251-5814	事務局 (増子)

26

役員名簿

特定非営利活動法人 共創のまちサポート

役職名	氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事長	國井 達夫	いわき市平字新川町14番地	無
副理事長	蛭田 優子	いわき市遠野町上根本字荒神平96番地の3	無
理事	増子 浩子	いわき市平字高月103番地の1	有
監事	菊地 秀明	いわき市小名浜字中原1番地の8	無

### 令和4年度社員名簿

(特定非営利活動法人 共創のまちサポート)

氏名	住所又は居所
増子 裕昭	いわき市平字高月 103 番地の 1
國井 達夫	いわき市平字新川町 14 番地
菅波 健	いわき市平神谷作字原前 5 番地
石井 波夫	いわき市平字六人町 26 番地の 16
高萩 芳	いわき市中央台鹿島 3 丁目 45 番地の 3
阿邊 智	いわき市瀬戸町竜ノ沢 9 番地
増子 浩子	いわき市平字高月 103 番地の 1
神田 芳江	いわき市好間町下好間一町坪 137 番地の 1
川崎 葉子	いわき市平下荒川川前 132 番地の 4
蛭田 優子	いわき市遠野町上根本字荒神平 96-3
塩田 美枝子	いわき市常磐松ケ台 2
齋藤 美幸	いわき市平字下の町 8-1-605
原 真理子	いわき市平字南町 49-5